

徳島県立南部防災館指定管理候補者の選定結果について

1 申請団体名及び選定結果

施設名	申請団体名	選定結果
徳島県立南部防災館	海陽町	指定管理候補者

（選定理由）

指定管理候補者として選定した海陽町からは、防災関係団体はもとより学校や各公共的団体等と連携した防災対策に取り組むことが提案されており、災害時における迅速な対応と平常時における効果的な防災意識の向上が期待される。

また、施設の管理面においては南部防災館に隣接した「まぜのおか」の指定管理者である財団法人海部下灘観光協会と協働した対応が提案されており、効率的な施設管理が期待される。

これらのことから、海陽町は徳島県立南部防災館の設置目的を適切に達成するとともに、適正な維持管理運営ができると判断し、指定管理候補者に選定した。

2 徳島県立南部防災館指定管理候補者選定委員会委員名簿

役 職	氏 名
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授	中野 晋
東西電工株式会社 代表取締役	南 幸雄
日本労働組合総連合会徳島県連合会 女性委員会事務局副局長	板東 喜代子
公認会計士	藤江 駿吉
南部総合県民局長	床 英二
南部総合県民局津波減災部長	七條 浩一
危機管理部南海地震防災課長	楠本 正博

3 選定の経緯

平成24年 7月23日

第1回選定委員会

（募集要項の承認、審査基準等の決定）

7月30日

募集開始（募集要項の公表）

8月22日

現地説明会

9月10日

募集要項配布終了

9月13日～ 9月26日

申請書類受付

9月28日～10月15日

各選定委員が申請書類を事前分析

10月16日

第2回選定委員会

（書類審査、指定管理候補者の選定）

4 選定委員会における選定結果

施設名	申請団体名	総合得点
徳島県立南部防災館	海陽町	適 (総合評価)

5 指定管理候補者の主な提案内容

審査項目等	海陽町の主な提案内容								
県民の平等な利用の確保と施設の効用の最大限の発揮	① 利用者ニーズを的確に把握するため、各種団体への意向調査を実施し、展示資料や図書・DVD、研修等の充実を図るとともに、「押しかけ防災講座」を積極的に実施する。 ② 町地域防災計画において、新たに南部防災館の利活用や役割等を明確化し、災害発生時の対応体制を整備する。 ③ 独立行政法人海洋研究開発機構が設置する「地震・津波観測システム」との相乗効果による防災・減災の啓発や、震災の貴重な体験を後生に伝える『語り部』等を開催する。 ④ 町立図書館との連携により、防災に関する図書等の貸出等の利便性向上を図る。								
効率的な管理運営 (経済性の追求)	① 適正な維持管理のため、日常的・定期的な安全管理、美化対策、設備保守点検、修繕等を行う。 ② 町の防災担当課と一体となった管理運営を実施するとともに、(財)海部下灘観光協会との連携により、経費の削減に努める。 ③ 地元ボランティアを講師として活用するほか、町立図書館との連携により図書等の購入費の削減を図る。 ④ 指定管理料は、3年間で35,756千円(税込) (単位:千円) <table><tr><th>年 度</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th></tr><tr><td>指定管理料</td><td>11,822</td><td>11,822</td><td>12,112</td></tr></table>	年 度	H25	H26	H27	指定管理料	11,822	11,822	12,112
年 度	H25	H26	H27						
指定管理料	11,822	11,822	12,112						
安定した管理のための人的・物的経営基盤の状況	① 施設の管理運営業務を適正に実施するため、防火管理者など、管理上必要となる資格を有した職員を配置する。 ② 防災士資格取得者など、防災に関する有識者・経験者等を採用する。 ③ 正規職員を2名配置するとともに、常時2名体制とするため補充職員の配置を(財)海部下灘観光協会に委託する。								
その他、地域への貢献及び連携等	① 地元の防災に関する有識者・経験者等を採用する。 ② 各種会合の開催や参加の機会を捉え、南部防災館の管理運営等に対するニーズの把握・情報交換等を行う。								